

文化交渉学研究プロジェクトの2024年度の活動報告



【写真説明】(左) INTERFACEing 2024の様子、(中) 公開セミナー「在日台湾人と戦後日本」の集合写真、(右) パリ大学での報告会の様子

【活動概要】

文化交渉学研究プロジェクトでは異文化の接触と摩擦、多文化社会が抱える問題解決に資する研究をテーマとして国際的な研究を推進するとともに、豊岡市、神戸市と連携し国内でも外国にルーツを持つ子供達の社会学的調査、「植民地と帝国の文化」に関する研究などを実施した。

海外の諸大学と共同で実施している学会、研究会には、若手教員や学生を積極的に派遣し、英語、フランス語、中国語、日本語などで学術発表を行っている。北京・復旦・神戸の三大学人文フォーラム、北京外国語大学との共同シンポジウムを継続して共催している。世界海洋文化研究所協議会にも参画し、さらにトリーア大学や国立台湾大学と共催している国際学会 INTERFACEing、パリ大学ナンテール校との共同研究・教育も継続して実施している。

【活動内容】

国際的な研究ネットワークの構築ならびに研究者の国際交流に努め、2024年度はP. ニーダーガング講師、T. オケ教授（ともにパリ・ナンテール大学）を招聘した。2025年1月25日には国立台湾大学の陳翠蓮教授（国立台湾大学）を招聘し、公開セミナー「在日台湾人と戦後日本」（30名参加）を開催した。

国内外で実施される国際会議にも、若手教員や学生を積極的に派遣し、発表と討議、人脈形成の機会を提供した。2024年8月28日-30日には、国立台湾大学、トリーア大学と共同で開催している INTERFACEing（於：国立台湾大学）に、PD及び大学院生を4名報告者として派遣した。10月26日-27日に開催した北京外国語大学との共同シンポジウムでは13名が報告し、11月16日-17日には、北京大学、復旦大学と共同で開催している三大学人文フォーラムで37名が報告した。2025年3月12日には、パリ・ナンテール大学で学生シンポジウムを開催し、大学院生3名を報告者として派遣した。

若手研究者の確保・育成としては上述の国際会議のほか、国内でもワークショップ「植民地と帝国の文化」（9月20-24日、大学院生6名報告）、公開研究会「現代人の生と時間」（8月31日、外部講師3名、30名参加）を実施した。「植民地と帝国の文化」で発表した大学院生6名の研究報のうち5本が推敲、査読を経て文化交渉学の新たなジャーナル『総合文化』に掲載された。

海外の研究機関・教育機関に加えて、周辺地域の自治体や企業とも共同で研究・教育の推進、発展を図ることで、地域の国際化、人材育成に貢献した。とくに神戸市、豊岡市と連携し、多様な背景を持つ子どもたちが抱える問題を解決するための実証研究を行い、2024年10月14日には豊岡市で映画・フォーラム「どうなっとるん？ 但馬の外国につながる子どもたちの進学」を開催した。神戸市とは公開ワークショップ「外国ルーツの子どもに関する調査報告会」（10月20日開催、3名報告、25名参加）、「神戸市外国ルーツの子ども調査最終報告会」（2025年3月20日開催、7名報告、外部討論者2名、25名参加）を開催した。